

# 一般質問通告書

受領日時 令和 6年 6月 3日 (午前)・午後 9時42分 10番 氏名 椎名 志保

質問項目	質問の要旨
1. 厳しい財政状況、 どう町政を運営し ていくのか	<p>(1) 3月定例会の施政説明で町長は、令和6年度当初予算編成について「全職員が厳しい財政状況におかれているという認識のもとに、引き続き『スクラップ・アンド・ビルド』を基本に、限られた財源の効率的な配分と歳出のさらなる効率化を図り、持続可能な行財政運営に資することを基本的な方針としている」と述べられた。</p> <p>『スクラップ・アンド・ビルド』のスクラップの部分をもとに、具体的にどの部分と考へ、この厳しい状況下を乗り切ろうとしているのか。</p> <p>(2) 敬老福祉の集いや、戦没者追悼式、産業文化祭など、長い間前例を踏襲され行われてきた行事や事業を財政面の効率化だけでなく、時代にあった開催の仕方へ見直しを行う考へはないか。</p> <p>(3) 厳しい財政状況の中、独自政策を打ち出す財源として、数々の子育て支援策で人口が増加傾向にある北海道東川町を例に挙げ、企業版ふるさと納税に取り組むことを提言している。町長からは、「昨年導入予定であったが、7月の豪雨災害で作業が中断している。事務手続等を確認しながら制度の導入を進めていく」との答弁があった。</p> <p>企業版ふるさと納税の取り組みは、現在どのようになっているか。また活用事業をどう考へているか。</p>
2. 積極的なキャリア 人材の採用を	<p>(1) これまで、たとえば防災に通じた人材や必要な技術職、民間経験者など、それまでのキャリアを發揮していただけるよう年齢にも幅を持たせた社会人採用を行うべきと提言している。五城目町職員定員適正化計画の中に「これからの五城目町を担う人材を計画的に確保することを踏まえ、経験者採用を含め、年度ごとの新規採用者数の平準化に努める」とあり、また専門分野での経験者採用なども視野に入れる旨の答弁もあった。</p> <p>災害が続いていることでもあり、特に防災などに通じている専門職の採用が今こそ必要ではないか。</p> <p>(2) 企業版ふるさと納税の取り組みを提言した際に、千代田区とのつながりを生かすべきと申し上げた。また千代田区とは「脱炭素社会実現に向けた連携協定」を締結していることでもあり、今後も活発な共同での事業展開が期待される。</p>

	<p>実際に千代田区職員の方に町に移住していただき、企業版ふるさと納税の取り組みに尽力いただくことをはじめ、町と千代田区間の連携事業を町に住み、行っていただくことの働きかけを提案する。</p> <p>(3)今年度は職員数4名減で業務にあたっており、職員の負担が増大したり、業務に支障が出ているといったことはないか。これまで地区公民館の町長部局への移管を提言している。また税務課と出納室が兼ねられている町村や、こども家庭庁の設置に伴い、子どもの関わる課を一元化する自治体も出ている。課の再編といった機構の改革が必要ではないか。</p>
<p>3.少子化に伴う学校施設の今後は</p>	<p>(1)このところの出生数の推移からみて、1クラスの学年は増える一方だ。現在の校舎は小学校中学校とも、各学年2クラスの設計になっている。長期的視野に立ち、小中学校校舎の統合などを含め、空き教室の活用、今後の校舎のあり方に町の考えはあるか。</p> <p>(2)町の小中学校は自校方式で給食の提供が行われている。ここ数年、中学校の調理器具や設備の交換・修繕が相次いでいる。給食設備の老朽化で益々大きな費用がかかることも説明されている。今後小学校でまとめて調理し、中学校へ配送するといった考えはないか。児童・生徒の減少による給食の提供のあり方を町としてどう考えるか。</p> <p>(3)今年度の小学校の光熱水費予算は2千168万円、燃料費は328万4千円であり、小学校管理費一般予算の半分を占める。隣接する温水プールの燃料費予算は1千434万8千円で、その2つの施設の熱源にバイオマス発電の考えがあると聞いていたが、3月定例会の町長の施政説明では「エネルギー事業を実施するだけの資源確保は難しいとの調査結果であった」とされた。今後の森林整備で、大量の熱源を必要とする2つの施設を賄う熱供給設備の導入に可能性はあるか。</p>
<p>4.見守りの組織づくり、取り組みはどうなっているか</p>	<p>(1)昨年大雨災害での経験をもとに、地域包括支援センターや民生委員の手の届かないところの見守りを担うコミュニティナース組織の立ち上げを提言している。前向きな答弁であったが、組織立ち上げの進捗状況はどういったものか。</p>